

『真光寺川 里親の会』通信

11月号 通算第67号

2006年11月12日

川岸の道にて

鶴川5丁目の自宅から大手町まで通勤するのに、朝7時半頃家を出る。少し早めだが駅までバスを使わず歩くことにしているからだ。遠回りになるが、バス道路を避け、広袴中央から真光寺川に出て川沿いの遊歩道を歩く。たいていは、家人もついてくる。毎朝川の状況を観察したいという殊勝な理由ではなく、少なくとも私は、ダイエットのためである。若い頃の60キロ台から80キロ近くになって、人目はともかく自分でも立居振舞が億劫で、肥満という悪循環に落ち込みそうなのだ。家人も体型は似たりよったり、同伴の目的は、知れたものである。

歩き始めて10年以上となるが、川の周辺は、宅地化により大きく変わった。能ヶ谷橋から上流に展開していた谷戸田の風景は、下田橋から神明橋までの右岸にわずかに残るのみで川相もまた変化した。大雨のたびごとに岸辺の叢が土砂とともに流され、川床の岩盤がむき出しとなり、川というより直線的な水路に変わりつつある。水辺環境の変化は、生き物にも大きな影響を与えている。蛭が群舞していたという白洲正子「鶴川日記」の往時はともかく、10年前の夏の夕べには、**蛙の大合唱**を聞きながら稲田を渡る涼風を楽しむことができ帰途も川沿いの道を選んだものだった。水田の上には、**ギンヤンマ**も飛んだし、川近くの林からは、**キジ**や**コジュケイ**の甲高い声も聞こえた。5年前には、何組も卵を孵して誇らしげに雛をぞろぞろ引き連れていた**カルガモ**も今年は、一組しか子育てしなかった。(しかもヒナは2羽のみ)天敵の蛇(**アオダイショウ**)が増えたためかと思っただ、最近はその蛇も一頃に比べると見られなくなったようである。

上流を歩いていると、**ウシガエル**の鳴き声をよく聞いた。あの食用蛙である。ついでに触れると、この餌として蛙とともに輸入されたのが**アメリカザリガニ**でこちらの方は、日本の生態系に定着し食物連鎖の欠かせない位置づけを占め、子供の川遊びでは最大の人気者である。初夏、川沿いの水田には、かつて**アマガエル**や**アカガエル**の**オタマジャクシ**とともに**ウシガエル**のそれも多く見られた。今や、わずかに残された水田だが、それでも去年はオタマジャクシを見たし、蛙の叢では**ニホンアマガエル**を見つけることも出来た。「今年、この田んぼではオタマジャクシを見なかったし、気がついたら**ウシガエルの声も聞こえなくなっている。それになんだか、川のザリガニも少なくなったみたい。**」家人に言われるまでもなく私も気がついてきた。確かに以前は、遊歩道から川を覗くと底を移動するザリガニや、鳥が食べ残した赤い爪もよく見られた。逆に**オイカワ**が目立って増えている。真光寺川まつりのミニ水族館では、婚姻色の鮮やかな**オイカワ**は見栄えがし、群泳する様はこの川の魚の豊富さを喧伝するものではある。一方では、**タモロコ**が殆ど獲れなくなり展示が難しくなった。魚種交代の進行...川が変わり生き物が変わってきているのではないか。

私達、清流の会では、真光寺川をきれいな川にして水辺に子供たちを呼び戻そうと願い、ゴミさらいをしてきた。川は、見た目こそ以前よりきれいになり、川遊びをする子供たちも増えてきた。しかしこれでいいのだろうか。自然の川が水路化し急流化すると魚種も変わるが植物も育たなくなり、やがて餌が減り急流の魚も棲めなくなる。

里山があり田畑がありそして、川があり、三者が有機的に分担して生き物を育てているのである。川だけが残ってもそこには、川の自然は残らないのである。**トンボ**は川辺の草に産卵し**ヤゴ**は水中で育つが、成虫になれば水田や林で餌をとり栄養をつけて産卵する。蛙は、田んぼでオタマジャクシ時代を送るが親になると山林に入り餌を求め、カルガモだって繁殖期は栄養補給のために田んぼで**イナゴ**などを食べている。ナマズは卵、稚魚の時は田んぼで過ごし川に帰る。川だけを考えても曲がりくねり、淀んだ淵もあれば急流の浅瀬もある。これが自然の川であり植物、昆虫、魚類が一体となった生態系を形成できるのである。

里山と田畑とセットになった川、もともこの川こそメダカ、**フナ**、**ドジョウ**、**ナマズ**などが棲み、岸边には**レンゲ**や**スミレ**が咲く日本の春の小川であった。これを真光寺川に求めることは、ドダイ無理な話である。しかしわずかでも残されている上流の田んぼと林、源流地帯の里山、これを今のうちに何とかできないものか、そして、**真光寺川そのものも、コイ**や**オイカワ**だけでなく**タモロコ**、**モツゴ**、**フナ**、**ザリガニ**それに水棲昆虫だって生息できる**淀みと植物豊富な岸を持つ小川に再生できないものか、真剣に模索しなければ**と焦る思いを抱いて川岸を歩く今日この頃である。(山岡 鐵也・記)

今月の新会員 (敬称略)

里親の会	三島 正之	広袴 3丁目	会の趣旨に賛同します。とEメールで
------	-------	--------	-------------------

真光寺川を清流にする会：4名。真光寺川里親の会：139名。合計183名となりました。

『めだか基金』ポスト

飲み会の割り勘残カンパで一木会・多摩の自然見つめクラブ・気楽会等々で10月は1,920円でした

ご厚志を頂くに当って、ご負担をかけない様に「印字済払込取扱票」をポスト脇のファイルに入れてあります。18年4月より振込手数料が値上げとなりましたので、「赤インク印字の払込取扱票」をご利用頂ければ、振込手数料は加入者負担となり、皆様には振込手数料をご負担頂かず、手数料無料でお振込みが出来るようにいたしました。但しなるべくATMをご利用ください(ATMの場合は手数料据え置きです)どうかよろしくお願いたします。

郵便振替 『00150 4 574114』
加入者名 『真光寺川里親の会』

今回も素晴らしいお便りを戴きました

能ヶ谷町の白井です。ご連絡遅くなりました。早速ですが、真光寺里親の会には参加させていただきます。手続等ご案内をいただければと存じます。時間的な制約もありますが、出来る限りで参加させていただきますので、よろしくお願いたします。……(白井 健重さま：Eメールで)はじめまして、広袴の三島と申します。会の趣旨に賛同しましたので、行事のある時にはご連絡下さい。……(三島 正之さま：Eメールで)真光寺川をフィールドにしている4年1組は10月に三度目の調査に入りましたが、ずいぶん生き物が多かったようです。「水」をテーマに学級で討論を深めていくことになりそうです。……(和光鶴川小学校・園田 洋一先生：Eメールで)

私たちの行動基準

- 1, 私たちの活動は、地元や地域の人たちに支持されているか。
- 2, 私たちの活動は、自然に対して謙虚であるか。
- 3, 私たちの活動は、誰にも解るように説明されているか。

12月例会は10日(第2日曜日)です

スケジュール 9:30 開戸親水場 集合
09:30 定点観測
10:00 開戸親水場～神明橋間のオペレーション(クリーン作戦)
12:00 作戦会議：里親通信発送(会場は『いちょう会館』です)
14:30 解散予定



カワラノギクが満開です

来年1月例会は12日(金曜日)に変更です

恩廻公園地下調節池の見学(掘削断面積250㎡のトンネルが、深さ約25mに建設されている)と新年会を予定しております。詳細は次号でお知らせしますが、恩廻公園地下調節池の中を案内して頂くためには、日曜日は不可能ですので、止むを得ず例会日を変更しました。ご了承ください。そしてご期待ください。

『<http://www5.ocn.ne.jp/~shinkoji/>』 ホームページのご意見感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』 会長：山口 拓郎 町田市鶴川1-10-13 /Fax 042-735-0382
事務局：町田市真光寺3-3-1 公社住宅6-105 高橋日出男 /Fax 042-735-0947 e-mail hide3@apricot.ocn.ne.jp
<編集後記>

前66号に引き続いて今月号もご寄稿頂いた原稿で紙面を構成しております。ご感想は如何でしょうか？ これからもこのスタイルを継続していきたいと思っております。皆様のご投稿をお願いいたします(T)